

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

岡本 友(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)

昨年に引き続き、2 回目の参加をさせていただきました。

今年も前回同様期間中大変濃密で有意義な時間を過ごさせていただきましたが、今回特筆したい点は受講生・先生方との交流にあります。1 日目の懇親会に出られなかったのがたたり少しスタートは遅れてしまいましたが、同じ世代の大学院で研究をする皆さんとお互いの研究、研究生活・環境、また様々なトピックについての意見交換が休憩時間・セミナー後の食事で行えたことは自分にとって本当に大きな刺激になりました。

自身はイスラーム教を国教とする国を研究対象地域としているものの、主たる研究内容はイスラーム的な側面ではありませんし、まして中東地域でもないために実は去年、セミナーへの参加について気後れしていました。しかし、普段どっぷり中東・イスラームばかりをやっていない人にもこのセミナーへの参加を大いに薦めたいです。中東研究をしていてもイスラームの側面を強調してやっていない人も、他の地域(東南アジアや南アジア、ディアスポラ地域)でイスラームに関連があることをやっている人も、このセミナーはそれを受け入れてくれ、新たな学びを得られる機会がたくさんあります。

大学院では学問領域のゼミをメインにしていることもあり、この教育セミナーは私にとって地域研究や(文化を含めた)イスラーム研究という側面についての実践的な学びをいっぺんに受けることができる貴重な場所です。自身の研究に関連がなさそうな研究発表・先生方のセミナーにもたくさんのヒントや共通点の発見がありました。またこういったトピックについての議論は普段十分にできないので、質疑応答の時間も楽しみの一つです。最終日にどなたかもおっしゃっていましたが、去年・今年とたくさんの良い質問・意見を聞いて質疑の仕方を学び、実践する機会を得ました。先生方の発表者へのフィードバックがまた質問者へのフィードバックになることもあります。それを 4 日間みっちり続けると、自分の中でも視点や意見についての手法を強化・改善することにもつながります。自身で発表をすることが一番たくさんのもので得られる機会になるのでしょうか、そうでなくてもセミナーに自ら参画し学びを深めることが十分に可能です。この姿勢については去年、今年と参加させていただいて少し成長できたのかなという実感もありました。

欲を言えばこのような機会がもっとあれば良いのに、とも思いますがこのセミナーが身近な場所で毎年開催され、そこに参加できたことはとても刺激的で嬉しいことです。参加者の皆さま、先生方、運営の方々にたくさんお世話になりました。このような素晴らしいセミナーに参加させていただきありがとうございます。